

KSK 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 中込 義昌
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 伊藤 實
〒210-0834 川崎区大島 1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E-mail zksk@nifty.com
http://kawashinkyo.org

令和 4 年度川崎市身体障害者福祉大会 開催



(福田川崎市長のご挨拶)

令和 4 年 7 月 3 日(日)中原区宮内の会館とどろき 2F 大会議室けやきにて「令和 4 年度川崎市身体障害者福祉大会」が二部構成で開催されました。

大会スローガン「自立と共生の地域社会の実現に向けて」を掲げ、川崎市内の身体障害者及び関係者が一堂に会し、103 名の方にご参加いただきました。今年は幸区が当番になり準備を進めてきました。来場時の非接触型

体温計での検温や手指消毒をはじめ、パーティーの設置や座席の間隔確保など、昨年に続いて今年も新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しての開催となりました。

第一部 式典

和田かよ子大会実行委員長の開会のことばより始まり、中込義昌大会会長(川崎市身体障害者協会理事長)による主催の挨拶と続きました。

福祉大会感想

大会実行委員会では、大会終了後にアンケートを回収いたしましたので、その中から一部を抜粋してご紹介いたします。

今回の福祉大会について

- ・多数の来賓が出席していて素晴らしいと思った。
- ・川崎市社会福祉協議会会長の話がとても良かった。

- ・要望は時間がかかっても叶うとうれしい。
- ・要約筆記者の席については、参加者の後方に席を設けるように考えてほしい。
- ・質疑応答の意見を反映してほしい。
- ・講演を含め良い内容だったが、時間が足りなかった。
- ・演壇マイクの音量が小さく、声が聞き取りにくかった。



障害者権利条約 日本の初審査

「私たち抜きに私たちのことを決めないで」を合言葉に世界中の障害のある人たちが作り上げ、2006 年の国連総会で採択されたのが「障害者権利条約」です。この条約は、障害のある人たちが差別を受けることなく、好きな場所で暮らし、学ぶことや働くことができるという、当たり前の権利の保障を目的として、障害のある人たちの人権や自由を守るために国がなすべきことが定められたものです。

日本は 2014 年に同条約を批准しました。これにより、条約内容が国内でどのように反映されているか、その進捗状況を国連の障害者権利委員会に定期的に報告する仕組みがあります。日本に対する条約の全 33 条についての取組状況に関する初めての審査が、国連の権利委員会により今年 8 月 22・23 日にスイスのジュネーブにて行われました。9 月 9 日、政策についての総括所見・改善勧告が公表されました。

評価された点の一例として、「アクセシビリティ、情報やサービスなどの利用についての基準が整備されたこと」・「民間企業にも合理的配慮を義務付けられたこと」等が挙げられました。

その一方で数多くの改善勧告が出されました。一例として、第 19 条「自立した生活及び地域社会への包容」に関する勧告では、障

害児を含む障害者が施設を出て地域で暮らす権利が保証されていないとし、障害者が地域社会で他の人と対等に自立して生活するために迅速な措置をとるように、また、精神科病院への強制入院を障害に基づく差別であるとし、強制入院や無期限の入院をやめ、地域社会で必要な精神保健支援とともに自立した生活を育むこと、障害のある人が地域で暮らすための法的枠組みの整備や、予算配分の見直しも求められました。地域社会が障害者を受け入れられる体制を整えることができるよう、費用や必要な支援を分析することが求められていると感じました。

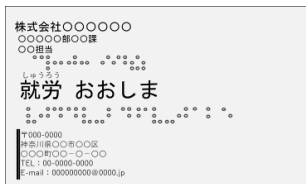
他にも、第 24 条「教育」に関しては、特別支援教育制度についての懸念が示されました。障害のある子供たち、とりわけ知的障害・心理社会的障害・より集中的な支援を必要とする子供たちにとって、通常教育にアクセスしにくいものになっているとし、分離された特別支援教育をやめるためには障害のある子供も含め全ての子供が一緒に学ぶ「インクルーシブ教育」に関する国の行動計画をつくることが求められました。

これらの勧告に強制力はないものの、日本の障害者の現状を審査した国連からの指摘です。国としてはこれを重く受け止め、今後改善の方策を講じる必要に迫られています。

川崎市内の事業所紹介「就労支援事業所おおしま」

「就労支援事業所おおしま (定員 20 名)」は、「(旧) わーくす大島」の民営化移行に伴い、就労継続支援 B 型事業所として、令和 3 年 10 月に開所致しました。

建物も職員も変わってしまう「民間移行」に関して、利用者様・御家族の方々は、大変不安だったかと思います。ですが一人も欠けず、全員揃っての「就労おおしま」をスタートする事が出来たのは、皆様のご理解とご協力の賜物だと感謝しております。また移行準備の際は、「(旧) わーくす大島」の職員の皆様からも丁寧な引継をして頂き、大変感謝しております。早いもので、そこから 1 年が経過しました。何事も初めての事が多く、トラブルもありましたが、利用者様・職員の垣根なく、皆で話し合っって進んできた事は貴重な財産だと感じています。



(点字名刺見本)



(封筒への点字刻印)

当事業所の特徴として、「点字」刻印が出来る事が挙げられます。名刺作成 (印刷+点字、点字のみのどちらでも対応可能) は多くのリピーターの方々にご利用頂いており、利用者様が 1 枚 1 枚手打ちで点字を刻印しています。完成品の発送手続きも利用者様が行っております。また名刺以外でも封筒への点字刻印も行っております。地域の小中学校からお預かりした封筒に、利用者様が手打ちで刻印しており、納受品時にはご挨拶もさせて頂いています。

またこの 1 年で新しく施設外作業も始めました。週 3 回の福祉施設の清掃作業ですが、

現場への徒歩移動も含めて、担当利用者様は熱心に取り組まれています。また夏場限定の除草作業にも週 2 回出向いており、猛暑の中での作業にも頑張っって取り組んでくれています。施設外作業時は、お揃いのビブスをユニフォームとして着用する事で一体感も生まれ、良い効果を発揮しています。



(施設外作業の 1 コマ) (インスタグラムQR コード)



事業所の方針として、利用者様が仕事を通して自信を持って生きていける支援をしたいと考えております。施設内での作業も勿論大切ですが、それだけに留まらず仕事を通じて地域に出ている事で、一人一人の可能性が広がると考えています。現場で挨拶等を交わしたり、「お疲れ様」と言っって頂けるという触れ合いが、凄く大きな経験になっていると感じています。そうした「利用者様のサービス」を提供し、それが対価として「工賃」に繋がっていく、そんな事業展開を目指して、今後も地域に出て働ける機会を作っっていきたくと考えています。

社会福祉法人 ともかわさき

就労支援事業所おおしま

〒210-0834 川崎区大島 4-4-10

TEL 044-246-0125

施設メール

[oshima-shuro@tomokawasaki.or.jp]

点字依頼メール

[tenji@tomokawasaki.or.jp]

(管理者 みかみ きみひこ 三上 仁彦)

一般社団法人川崎市自閉症協会 新代表理事就任のご挨拶

関係者の皆様には、日頃より一般社団法人川崎市自閉症協会の活動にご理解ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

令和 4 年 6 月に開催された『一般社団法人川崎市自閉症協会 社員総会』におきまして、新たに代表理事に就任いたしました小泉佳世こいずみ かよです。

16 年間代表を務めていただきました明石洋子あかし しょうこさんの後任ですので、務められるか不安もありますが、理事の



方々とともに、会員の皆さまにご協力を頂き活動していきたいと思っております。また、明石さんの子育ての中で培われた人脈やお人柄で、当協会の外部理事にはそうそうたる専門家の先生方がいらっしゃいます。外部理事の先生方にもご指導頂き、新理事とともに会を運営してまいりますので、これまで同様どうぞよろしく願いいたします。

今回このように寄稿の機会を頂きましたので、改めて当協会についてご紹介させていただきます。

自閉症及びその周辺の障害を総じて『自閉症スペクトラム症』といいます。この障害は生まれつきの脳の障害で、独自の認知機能を持ちコミュニケーションが苦手で、社会生活を送る上で適切な支援が必要です。一緒に暮らしている家族もどう対応したらよいのか悩むことが多く、外見からはその障害が分かりにくく保護者も孤立しがちです。当事者・家族の願いは必要な支援を受けながら、地域で穏やかに過ごす事です。

さて、ここ 2 年程はコロナ禍の為、多くの団体同様に当協会も活動を縮小・中止せざるを得ませんでした。

そのような状況ではありましたが、昨年度

は体育訓練会（体操教室・リトミック）を、回数を減らし会場を変更しながらも何とか実施しました。「かわさきし自閉症児・者作品展」も展示のみとし、川崎市多摩市民館アトリウムで開催。オーティズムカフェ（茶話会・勉強会）も回数を減らし 2 回開催。また、父親の情報交換の場である「おやじの会」は初めて Zoom 開催するなど、会員の皆さまにご協力頂き、できることを工夫しながら活動しました。

今年度はウィズコロナで感染対策をしっかり行ったうえで、色々な活動も徐々に行う体制であります。

毎年 4 月 2 日の『世界自閉症啓発デー』には「ようこそ自閉症ワールドへ！」の啓発企画を実施。川崎市心身障害児者福祉大会参加、川崎市市議会議員団との懇談会や川崎市教育委員会・県教育委員会との懇談会などの場で、会員の要望・意見などを発信させていただきます。

ペアレントメンター事業では、市の障害計画課の支援を受け、令和 4 年 7 月 9 日に川崎市の 4 つの地域療育センターとの懇談会を開催し、現状の様子などを学び、今後のペアレントメンター活動にとっても参考になりました。10 月以降随時各地区での茶話会（メンターカフェ）を実施していく予定です。

この夏はコロナ感染者が急増し、身近な人たちが多く感染し療養することになりました。当協会の活動の中心となっているのは母親たちなので、家族の感染には特に気を使って対策しています。いつまで続くのか先の見通しが立たない状況は、自閉症スペクトラムの方々にとって大きなストレスとなっています。

今後もコロナ感染状況をみながら活動を進めていく事になります。皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

*ペアレントメンターとは

障害がある子の子育て経験のある親が、養成講座(所定の研修)を修了し、医師などの専門家ではなく同じ親の立場で当事者・家族に寄り添いつつ支援を行う者です。川崎市では当協会の会員でメンターの資格を有する者

が、市から委託された「発達障害児・者支援体制整備事業」として活動します。

(一般社団法人川崎市自閉症協会

代表理事 小泉 佳世



川崎市における精神障害者のスポーツ交流事業の歴史

川崎市における精神障害者のスポーツ交流事業の一端をお知らせします。

まず、市精連(川崎市精神障害者地域生活推進連合会、発足時川崎市精神障害者地域作業所連絡協議会)は利用者の交流事業からスタートします。1994年(平成6年)7月に7団体13作業所で結成されてから、今年で28年目になりました。発足時は「会員相互の連携、精神障害者の社会参加及び地域支援活動の推進、会員の運営基盤の確立」の目的に沿って手掛けた作業所間の組織交流や安定した経営的基盤(運営補助金など)の確立に向けた事業や活動でした。

発足前は、精作連(神奈川県精神障害者地域作業所連絡協議会)川崎支部として、関係団体や機関と連携しながら定例会や研修、交流事業などを行っていました。交流事業では各区の納涼祭や福祉まつりなどに参加していました。

発足後は、市精連内部の交流を中心に、利用者や職員間の交流・親睦を目指してレクリエーションやスポーツ交流事業などを重視して行ってきました。(以下表)

1994年 (平成6年)	花見会(115人:7作業所参加)
	ボウリング大会(75人:9作業所)
1995年	花見会(102人:11作業所)
	ボウリング大会(96人:11作業所)
1996年	花見会(146人:11作業所参加)
	ボウリング大会(114人:12作業所)
1997年	ボウリング大会(152人:16作業所)
1998年	ボウリング大会(145人:16作業所)

活動していく中で加盟事業所数も増加していき、参加者も多くなって見直しを迫られた中で、1999年(平成11年)以降には、精神障害当事者が主体的に発信することを目指して「みんなで語ろう!シンポジウム」を10回(10年)連続して開催してきたところです。

川崎市における精神障害者のスポーツ交流事業として現在も継続して開催されている事業を紹介します。公益財団法人神奈川県社会復帰援護会が主催している「ボウリング大会」と川崎市精連が協力支援している「卓球交流会」が挙げられると思います。

1978年(昭和53年)11月、財団法人神奈川県社会復帰援護会主催で「第1回ソフトボール大会」が中原区平間の三菱自動車グラウンドで開催されました。1997年(平成9年)5月、第20回大会が川崎球場で開催され、11チーム(精神病院、保健所、リハビリセンターデイケア、作業所合同チームなど)400人近い参加者で交流の場を担ってきました。その後は、参加者の高齢化などもあり1998年(平成10年)からは「ボウリング大会」に衣替えして、2019年(令和元年)まで通算42回開催されてきました。現在はコロナ禍で休止していますが、長期にわたり精神障害者のスポーツ交流事業の発展を支えてきたと思います。

次に卓球交流会を紹介します。1978年(昭和53年)大師保健所「大師ひまわり会」という精神障害者の当事者団体が川崎南部を中心として10回開催してきました。以降は、1988年(昭和63年)、当事者会である「川崎市精神

障害者連絡会」(川精連)に引き継がれ、2013 年(平成 25 年)「第 35 回卓球交流会」まで 35 年間、継続して開催してきました。

その後 2 年ほど中断していましたが、2016 年(平成 28 年)「今年こそ、卓球交流会をやって!」「貴重な交流場面を再開して!」という要望が元川精連の役員だったメンバーや市精連の役員である支援者にも寄せられました。このような要望を受けて元川精連の役員だったメンバーを中心に、関係機関や団体に財政的な賛同や協力をお願いをし、当事者たちの思いを繋ぐこの卓球交流会を市精連として事務局的なサポートや財政面も含めた支援・協力をを行うことに決定しました。

運営については、参加団体から実行委員を募り、卓球交流会実行委員会を立ち上げて主催団体として当日までの準備や運営を担う形で進めていくこととしました。こうして 2016 年(平成 28 年)「第 36 回卓球交流会」(参加 8

団体・参加 100 人)開催にこぎつけました。その後も 2017 年(平成 29 年)「第 37 回交流会」(9 団体・105 人)、2018 年(平成 30 年)「第 38 回交流会」と継続して開催してきたところです。

市精連は当事者たちの思いをつないだ卓球交流会を、今年も当事者活動(ピア活動)の活性化と当事者の交流の輪が少しでも広がっていくことを願って準備していきたいと思えます。

最後に、このような障害者の交流活動や新たな試みの事業を始める際には、準備資金などの財政支援を「障害者の社会参加の場面充実」という視点からも「川崎市障害者社会参加推進センター」にお願いして報告を終えたいと思えます。

(川崎市精神障害者地域生活推進連合会

代表 小笠原 勝治)



川難聴女性部「宮ヶ瀬ダム放流」と「服部牧場」見学

川難聴の女性部では、昨年、コロナ感染拡大の関係で「宮ヶ瀬ダム放流」見学を中止しましたが、2 度目の企画で令和 4 年 6 月 22 日(水)に実施しました。この見学を楽しみにしていた方が多く、要約筆記者を含め 33 人の参加者でした。直前になって、事情で 1 名のキャンセル者が出て、ご一緒できなかったのがとても残念に思いました。

当日は霧雨が降るときもありましたが、ほとんど傘は必要なかったほど、天候には恵まれていました。予定の午前 8 時 30 分に JR 南武線武蔵小杉駅北口前を福祉バスきぼう号で出発。東名高速道に入り、途中、海老名パーキングエリアでトイレ休憩。その後、宮ヶ瀬ダムに向かいました。午前 11 時の放流時間に合わせて、全員ロードトレインに乗り、放流

場所へ行きました。宮ヶ瀬ダム放流は、初めて見る方も多く、6 分間の迫力に驚いていました。ダムの下は激しい水圧で霧が掛かって、風にあおられ、水しぶきが飛んでくるような感じでした。橋の周りには、わたしたちの他に、一般見学者や関東周辺から小学生の団体



(宮ヶ瀬ダム放流)

客が大勢見学に訪れていました。

昼食は、旅館「みはる」で、予約しておいた和食弁当をいただきました。とても美味しかったとの感想も大勢寄せられました。その後、バスは、丹沢あんぱんやあげぱん（揚げパン）で有名な「オギノパン」へと向かいました。普段から、相模原市周辺の小学校の給食用パンなどを大量に作っている会社だそうです。しかし、いろいろな種類のパンを生産しています。パン工場を見学する人は少なかったようでしたが、パンを買う人がたくさん並んでいました。

「オギノパン」見学後は、バスで近くの「服部牧場」へ移動しました。ここでは、事前に牧場のガイドを依頼してありましたので、牛舎の中で係の人からいろいろと詳細に説明を受けました。牛は生涯に 10 回程度出産するそうで、この 10 月に出産予定の牛や、人なつっこい牛、羊などの動物に触れることができました。当日は暑かったので、牛舎の中は大型の扇風機がフル回転でした。服部牧場では名物のソフトクリームを食べる人が沢山いました。久しぶりに生々とした緑の木に囲まれたところに行けて、森林浴も同時に楽しめました。

皆さんとおしゃべりし、ダムの放流に感動し、ストレス解消、気分転換になったとの参加者から感想もいただきました。また、参加者が旅行中にバスの中で大笑いした話もありました。高齢者の Y 氏が自分で帽子をかぶっているのに、「帽子が無い、帽子が・・・」と、連呼して必死に帽子を探していたそうです。結局、ご自分の頭に「ある、ある？あった」と…。ホッとしたような笑顔に戻ったりして、周りの人達は呆れ顔だったそうです。また、他の方の感想では、チラシの集合場所には JR 武蔵小杉駅北改札口として記載してあったため、肝心の「南武線」が記載漏れで、たまたま初めて参加された方でしたので、横須賀線か？と出口に迷い、たいへん困ったとの感想

も聞かれました。会員の中では普段なかなかお会いする機会が少ない人もいますので、今後はこのような事がないように気をつけなければと反省しました。

しかし、今回のバス旅行で一日ゆっくり楽しめる企画は、とても良い気分転換になり、参加者の皆さんに喜んでもらえました。事故もなく無事に予定通り、夕方 5 時 30 分に「南武線」武蔵小杉駅北口に到着しました。参加者の皆様たいへんお疲れさま。また今年の 10 月に川越方面のバス旅行を企画しております。



(服部牧場)

(NPO 法人川崎市中途失聴・難聴者協会
伊藤 雅子)

編集後記

いまだ新型コロナウイルス感染症がおちつきません。

それに加えて、今年はインフルエンザとの同時流行も懸念されているそうです。

両方の感染防止のために、マスクや手指消毒をしましょう。

また、重症化しないようにワクチン接種をしましょう。

(編集委員 宮田 正行)

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール 3F
横浜市車椅子の会内 (頒価 100 円)